

令和4年度学校自己評価システムシート (県立岩槻北陵高等学校)

目指す学校像	地域の信頼に応え、節度と規律を重んじ、新たな自分の創造に向け、主体的に学び続ける生徒を育む学校
--------	---

重点目標	1 生徒の学ぶ意欲と確かな学力を向上させ、生徒一人ひとりの進路実現を図る 2 家庭・地域への情報発信を通じ、学校への理解を深める 3 基本的な生活習慣を確立させ、規律ある安心・安全な生活を送る 4 生徒の自主的活動を通じ、社会に貢献する心豊かな人間を育てる
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標					年 度 評 価 (月 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	近年、授業に集中するようになり、成績不振者、延べ欠点数は減少し、成績優秀者が増加している。感染防止対策を徹底し、より授業に集中できる環境づくりやコロナ禍であっても学びの質の維持、学習機会の保障のため、オンライン授業等の環境を整える必要がある。 進路ガイダンスや到達度テスト、インターンシップ等とおし、進路意識は向上している。進学希望者への実力養成と就職者への働く意識の向上を図る。	(1) ICT活用も含めて、学習環境を整備・充実・発展させ、学習に集中できる環境を整える。学び直しを活用し、生徒の基礎基本の定着を徹底させ、「わかる」授業を目指す。 (2) 生徒の進路意識を段階的に向上させ、生徒一人ひとりの望ましい進路実現を目指す。	①オンライン授業等が行える体制を作る。 ②チャイム to チャイムを徹底し学習に取り組む環境を整える。 ③ｽﾀﾃﾞｻﾞﾌﾞﾘの到達度テスト及び動画配信サービスを活用する。 ④朝学習、放課後・考査前勉強会を実施する。	①オンライン授業等の環境整備状況。 ②生徒アンケート「チャイム着席」の状況。(昨年度94.9%) ③到達度テストの実施状況。 ④各種勉強会への生徒の参加状況。			
2	コロナ禍において行事や公開授業等の実施が困難な状況であるが、実現可能なところを模索し、実施している。このような状況下にあっても学校の取組や生徒の活躍の様子を、地域、近隣中学校、外部機関に効果的にアピールし、本校への理解を深めていく。HPの適宜適切な更新や一斉メールの一層の活用が課題である。	(1) HP や hokuryo.now (学校通信) 等を用いた情報発信をさらに充実させ、家庭や地域に本校の取組が伝わる体制を充実させる。 (2) 学校説明会や地域行事等で、生徒に参加を呼びかけ、生徒の活躍の場をより多く設定していく。	①見やすいHPとするとともに、学年通信や分掌通信等をHP配信し、学校の取組を発信する。 ②地域行事に積極的に参加する。 ③PTAへあいさつ運動や学校行事の参加を促す。	①HPの更新状況。学年・分掌・部活動等での更新回数。(昨年度更新回数150回) ①学校便り等の発行状況。 ②地域行事の参加回数。 ③PTAの学校行事への参加状況。			
3	基本的な生活習慣が身についている生徒は増加している。遅刻・欠席者数が改善し、交通マナー等も改善している。身だしなみ指導、遅刻減少、欠席者数減少に向けた取組を継続していく。	教職員間で生徒指導体制の共通理解を図り、学校全体として、系統的、一貫した生徒指導に取り組む。自主自立の精神の育成のため、身だしなみ・マナー・時間管理の意識を向上させる。	①下校巡回指導、昇降口での立哨指導を実施し、基本的な生活習慣を確立させる。 ②身だしなみ指導を実施する。在校中の携帯電話使用ルールを徹底・遵守させる。 ③自転車マナーアップを推進する。	①遅刻者・欠席者数の減少の割合。(遅刻指導対象者数前年比15%減) ②身だしなみ指導及び携帯電話使用に対する指導件数の状況。 ③近隣からの苦情・交通トラブル、事故件数の減少。			
4	生徒会活動や部活動は活発になってきている。生徒の自己有用感向上のため、様々な場面で生徒が自ら考え主体的に活動し、活躍できる場を設定する。特別な支援が必要な生徒や課題のある生徒が増加傾向であり、各種の支援を実施する。	(1) 生徒会を中心に、生徒の主体的な活動を促す。団活動やその他の行事を通して、生徒の自己有用感を高める。 (2) 教育相談員やSC、SW、外部機関との連携を強化する。特別支援教育、多文化共生等の充実を図る	①各行事において生徒に主体的に運営させる。 ②団活動や生活委員会等の活動を活性化させる。 ③薬物乱用防止教室など各種講演会・研修会を実施する。 ④教育相談・特別支援教育委員会を定期的に開催し、課題のある生徒への対応を適切に行う。 ⑤多文化共生推進員を有効活用する。	①文化祭等学校行事における生徒の運営状況及び満足度。 ②団活動及び委員会等の活動状況。 ③各種講演会・研修会の実施状況。 ④支援が必要な生徒や課題のある生徒への対応状況。 ④外部機関との連携状況。 ⑤日本語指導の実施状況。			

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和 年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等	

